

中学2年生が社会の第一線で活躍されている人に、ビデオ会議アプリ「Zoom(ズーム)」を使って直接質問する「職業インタビュー」の第2弾が、川西市清和台西2の清和台中学校であった。

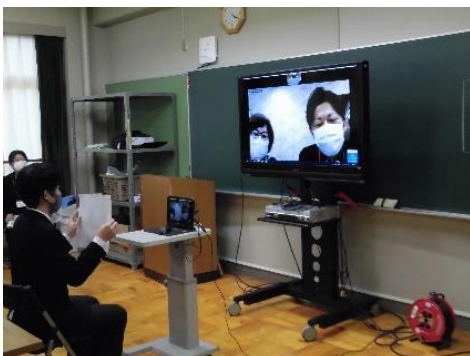
11月25日には、阪神園芸(株)甲子園施設部部長の金沢健児さんと、大阪国際空港で働くANAのグランドスタッフのシャハ・アンコンさん=ANA大阪空港(株)=にインタビューを実施した。

阪神園芸の金沢さんには、この仕事をしようと思ったきっかけと、甲子園球場で心に残った試合は何かなどについて質問。金沢さんは、きっかけについて「社会に出てからサラリーマンとして働いていたが、子どもの時に野球に関わる仕事がしたいと思っていた」、心に残った試合は「1998年、夏の高校野球の決勝での松坂大輔投手(横浜高)のすごさが印象に残っている」と話した=写真㊸。



ANAのシャハさんには、お客さまに安全・安心を提供するためにどのような取り組みをしているか、夢の実現に向けて努力したことは何かなどを質問。シャハさんからは、安全に関することは躊躇(ちゅうちょ)せず発信することや、スタッフ一人ひとりがお客さまに寄り添ったサービスを常に考え行動していることが紹介された。また、生徒のみなさんへとして、学生時代に何事にも真剣に打ち込んで欲しいとのエールが送られた。

さらに12月2日には、地元の介護施設・清和苑の施設長の川上大輔さんとホーム長の鬼塚亜香里さんに、どのようなときにやりがいを感じるか、尊敬している人は誰かなどを質問した。2人は、やりがいについて「入所されている方から『清和苑で生活してよかった』と、感謝の言葉を言ってもらえるとき」と答えた。尊敬している人は2人とも両親で、「自分が子どもを育てるようになって、子どものころにやりたいことをさせてくれたことに気付いた」などと話した=写真㊹。





清和台中学校では12月7日、インタビューした内容について、事業所ごとに代表の生徒が発表する報告会を行った。パワーポイントを使って質問した内容と、話された内容を報告した。最後に、今回インタビューに応じた事業所の人々が、中学2年生に向けて話されたメッセージビデオが流された。生徒からは、「自分がインタビューした人以外の方からも話が聞けてよかった」という感想が出ていた＝写真④。

